

中通りの秋冬どり加工用ブロッコリーは 密植して増肥することで単収を多く得られる

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

- 1 部門名 野菜－ブロッコリー－栽植様式・栽植密度
- 2 担当者名 八木田靖司
- 3 要旨

冷凍加工向けブロッコリーは、青果用ブロッコリーとは異なり基部を除いた花蕾部のみが利用される。生産にあたっては単位面積当たりの花蕾部のみの収量をより多く確保する必要があることから、その栽培方法を検討した。その結果、青果用ブロッコリーを栽培する場合よりも密植して増肥し、花蕾を肥大させて収穫することで単収を多く得られることを明らかにした。

- (1) 株間 28cm、条間 60cm、栽植本数 5,952 本/10a の密植とし、花蕾のゆるみが発生する直前まで肥大させ（花蕾径 16cm 以上を目標）収穫することで、慣行の青果用ブロッコリー栽培方法（株間 35cm、条間 60cm、栽植本数 4,761 本/10a）と比べ、収量を 1～4 割多く得られる（表 1）。
- (2) 密植すると栽植本数が多くなり慣行よりも株当たりの花蕾重が軽くなる傾向があるため、慣行と同程度の花蕾重を得るには、地域慣行の施肥量をもとに追肥量を増やす必要がある（表 1）。

表 1 栽植本数ごとの花蕾重及び収量（郡山、2023 年～2024 年）

品種	熟期 (播種後)	栽植密度	2023年						2024年					
			収穫期			花蕾径 (cm)	花蕾重 (g)	収量 (kg/10a)	収穫期			花蕾径 (cm)	花蕾重 (g)	収量 (kg/10a)
			始期	盛期	終期				始期	盛期	終期			
SK9-099	早生 (85～90日)	密植	11/8	11/21	11/28	17.2	373	2,222	11/1	11/5	11/8	15.2	290	1,723
		慣行	11/8	11/14	11/24	17.9	407	1,938	10/28	11/1	11/15	14.0	257	1,221
グリーン キャノン	中生 (115日前後)	密植	11/28	12/19	12/19	16.7	327	1,944	11/8	11/15	11/22	15.1	240	1,429
		慣行	11/28	12/13	12/26	16.7	335	1,595	11/5	11/15	11/29	14.8	228	1,083

※2023 年：7 月 27 日播種、8 月 25 日定植。基肥 N:P₂O₅:K₂O = 14.0:20.0:14.0 (kg/10a)、追肥 N:P₂O₅:K₂O = 3.2:2.8:2.8 (kg/10a)、追肥は 9 月 19 日に施肥した。

※2024 年：7 月 16 日播種、8 月 16 日定植。基肥 N:P₂O₅:K₂O = 14.0:20.0:14.0 (kg/10a)、追肥 N:P₂O₅:K₂O = (密植) 13.6:11.9:11.9、(慣行) 8.1:7.1:7.1 (kg/10a)。追肥は 9 月 12 日に施肥した。また、基肥と追肥の合計窒素施用量 4.64g/株となるように施肥した。

※ 収穫期は、半数以上の区が 10%収穫となった日を始期、50%収穫となった日を盛期、90%収穫となった日を終期とした。

※ 花蕾重は、花蕾部の分岐下部 1cm で茎をカットした重量とした。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 加工用ブロッコリーの栽培技術の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) ブロッコリー花蕾の大型化によるフローレット増収技術 (2020 年, 農研機構野菜花き研究部門)